

昨年度は二作とも平均的に収穫できましたが、今年は品種によって収量に差が出ました。

特に初夏播きでは9月の台風による強風被害などの天候不順で、品種に関わらず不作になりましたが、その中でもSK9-099は花蕾粒の揃いや花蕾形状などの品質が優れ、かつ安定的に規格内花蕾を得ることが出来ました。

また、参考品種を加えた今年の収量成績も図示（図2）しましたが、市内で作付けが多い「おはよう」は意外と収量が伸びませんでした。その中でも「すばる」は高単価が見込まれる2L（花蕾径11～13cm）が、不作であった初夏播きでも多い結果となりました。

今後、今回評価が良かった品種について、より多くの作期毎の評価を行う予定です。

ハウレンソウ栽培における枝葉草堆肥の効果についての試験調査

家庭の枝葉草を原料とする堆肥活用のため、市内ハウレンソウ栽培に多い作型（年3作）にて、作付ごとに一定量の枝葉草堆肥を施用する試験調査を行いました。

【栽培の概要】

試験区：対象区（無施用）、10kg区※、20kg区 ※1作あたり10kg/m²=10t/10a

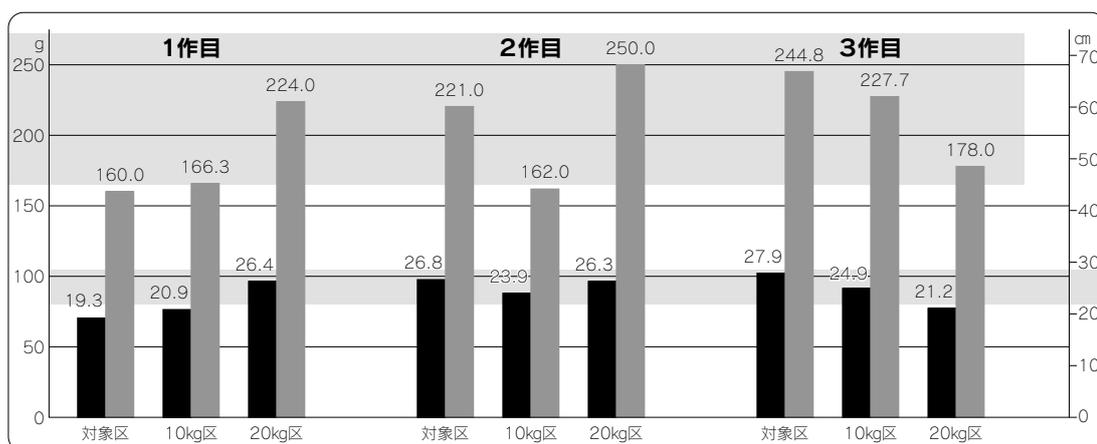
作型等：①1作目初夏まき、6月18日播種～7月17日収穫（生育日数30日）

②2作目夏まき、7月30日播種～9月10日収穫（生育日数43日）

③3作目秋まき、9月25日播種～11月8日収穫（生育日数45日）

共通条件：無加温ハウス、条間15cm×株間7cm、施肥量N=1.6、P₂O₅=1.0、K₂O=1.4（kg/a）

※管理は慣行による、施肥量は9試験区（3試験区×3作）全て共通。



品質目標
・長さ22～28cm
・7～12株/200g
(166～285g/10株)
※本試験では60株調査を行っているが、図の調整重は10株あたりの重量に変換して、示している。

図 調整重 (g/10株) と平均草丈 (cm)

【生育概要と調査結果】

1作目は、全試験区で抽苔が発生し、収穫時期を早めたため、対象区・10kg区では十分な生育ができませんでした。2作目は、台風及び地震の影響により収穫が遅れたため、全体的にやや生育過剰と思われましたが、20kg区では特に収量が高くなりました。3作目は、外的な阻害要因はなく、生育状況も安定しましたが、20kg区では収量・草丈ともに他2区に比較して落ち込んでおり、枝葉草堆肥の施用においても過剰施用には注意する必要があることがうかがわれました。

今後も、施肥条件等を整理し、生育調査を行うとともに、土壌状況についての調査を含め、枝葉草堆肥を活用した土づくりに関する取組みを継続する予定です。